

平成 25 年度文学研究科共同研究 研究成果報告書

申請者氏名	内田次信
-------	------

研究課題名	ヨーロッパ芸術におけるギリシア・ローマ神話の水脈に関する分野横断的研究
-------	-------------------------------------

研究組織

氏名	所属機関・部局・職名	専門分野
内田次信	文学研究科・教授	西洋古典文学
西村賀子	和歌山県立医科大学・教授	西洋古典文学
加藤 浩	文学研究科・准教授	文芸学
五之治昌比呂	日本語日本文化教育センター・准教授	西洋古典文学
田中 均	文学研究科・准教授	美学
桑木野孝司	文学研究科・准教授	西洋美術史学
渡辺浩司	文学研究科・助教	文芸学
西塔由貴子	京都精華大学・講師	西洋古典文学
西井 奨	学振特別研究員 PD (大阪大学)	西洋古典文学
里中俊介	文学研究科・博士後期課程	文芸学

※ 1 行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※ 本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究の目的・計画

神話と芸術がその起源において不即不離の有機的關係性の内にあることを、西洋古典学、文芸学、美学、西洋美術史学の視点から分野横断的に明らかにすることが、本研究の目的である。その際本研究は、ギリシア・ローマ神話が内包する多様性、その古典的規範性、さらには、その芸術表現における独創性を多元的に把握することを試みる。それにより、西洋古典学と芸術諸学を架橋し、西洋古典学を自己完結的枠組みから解き放つとともに、往々にして対象規定に苦慮する芸術諸学に対して、古典的規範性を指定することができる。もとより、この古典的規範性といえども硬直した規矩としてのみ機能するのではなく、芸術創造に際しての独創性の源泉であることを多面に渡って実証する。

研究成果

ヘレニズムとヘブライズムがヨーロッパ文化の基底を成していることは広く知られている。しかし、ギリシア・ローマ神話がヨーロッパ芸術に与えた影響に関しては、それぞれの専門分野ごとに散発的に研究がなされるのが通例である。本研究は、こうした通弊を克服するべく、西洋古典学と芸術諸学の専門家が緊密に連携しあうことで、実効性のある課題遂行の実現を目指すものである。一口にギリシア・ローマ神話と言っても、その内実は多岐にわたる。従って、叙事詩、抒情詩、劇詩といった三大基本文芸ジャンルのみならず、俗信や伝説と言った言伝え、さらには、小説や哲学・歴史と言った散文にも目配せをする必要がある。また、ギリシア・ローマ時代の造形芸術も、多分に神話によって支えられているがゆえに、文献資料と照合しつつ、それらについて実証的に研究することも不可欠である。こうした文献学的ないし実証的手続きによって再構成されるギリシア・ローマ神話の祖型は、取りも直さず芸術諸学の歩むべき道筋を示す。つまり、文芸、演劇、音楽、美術と言った芸術諸ジャンルも、ギリシア・ローマに範を求めるときは、おのずから一定の神話的規制の内にある。しかし、芸術は独創性の表現である。常にこの神話的規制を超越する傾向性を示す。それゆえ、本研究は、①**ギリシア・ローマ神話が内包する多様性**、②**その古典的規範性**、さらには、③**その芸術表現における独創性**を多元的に把握することを試みる。つまり、西洋古典学と芸術諸学を架橋して、西洋古典学を自己完結的枠組みから解き放つとともに、往々にして対象規定に苦慮する芸術諸学に対して、古典的規範性を指定することができる。それにより、古典的規範性と芸術表現における独創性の関係性も明るみに出るものと期待される。従って、本研究により、多様で錯綜としたギリシア・ローマ神話が芸術創造に対する規範性として機能する様を記述することも可能となり、ひいてはさらに、芸術作品の独創性の成立を、ギリシア・ローマ神話の多様性と規範性に対する関与性を契機として解明できる可能性も開かれてくる。

研究目的を実現するために、ギリシア・ローマ神話学研究会と共催でつごう三回の研究会を開催した。

なお、本研究に基づいた科研費の獲得状況は以下の通りである。

基盤研究(B)「ヨーロッパ芸術におけるギリシア・ローマ神話の水脈に関する分野横断的研究」
(代表 内田次信) は、採択されなかった。

基盤研究(B)「近代ヨーロッパにおけるアリストテレス『詩学』の受容に関する分野横断的研究」
(代表 加藤 浩) は、採択された。

研究発表 [①論文・書籍、②口頭発表、③研究会開催、④その他に分けて記入してください。]

① 論文・書籍

内田次信『ヘラクレスは繰り返し現われる—夢と不安のギリシア神話』、大阪大学出版会

西村賀子 The Reception of Greek Tragedy in Modern Japan, Bulletin of School of Health and Nursing Science, Wakayama Medical University, 10.

西村賀子「古代ギリシアの演劇と現代日本」、『文学』（岩波書店）、15(2)

加藤 浩「模倣論より見たポイエーシスの機構」『2013年度文学研究科共同研究成果報告書』

西塔由貴子“A Bright Lifeforce Image in the *Iliad*: On the Metaphorical Function of *foi=nic*,”
『京都精華大学紀要』第44号

里中俊介「ポイエーシスとミーメーシス —— プラトン『国家』におけるその一様相 ——」
『2013年度文学研究科共同研究成果報告書』

② 口頭発表

西村賀子「原型的乳母——『オデュッセイア』におけるエウリュクレイアをめぐる」。第12回ギリシア・ローマ神話学研究会

西塔由貴子“What is *phnix*?: a study on the transformation of colour in translating myth.” 8th London Ancient Science Conference (University College London, UK).

③ 研究会の開催

ギリシア・ローマ神話学研究会と共催で都合三回の研究会を開催した。（2013年7月27日、11月30日、2014年3月1日）

④ その他（翻訳書の刊行）

内田次信「プルタルコス他『古代ホメロス論集』」、京都大学学術出版会